

平成30年度 乳幼児教育振興特別事業
全幼研ワクワクプロジェクト（新潟） 報告書

「自然に親しみながら遊ぶための保育環境と教材研究」

提出日 平成30年 11月16日
支部長名 白井 智佳子

- 実施日 平成30年11月10日（土）
時間 9時30分～ 16時30分
○ 共催 なし
○ 会場 学校法人藤見学園 藤見幼稚園・白鳥こども園
○ 参加者 藤見幼稚園 45家族145名 白鳥こども園 54家族 152名
（計 99家族 297名）
○ 講師 所属・職名 ウレシパモシリ 自然保育コーディネーター
名前 高橋 京子 先生 高橋 博行 先生

- 内容
2018秋 森の幼稚園
<テーマ> 藤見幼稚園「おいでよ動物の森」 白鳥こども園「森のショッピングモール」
<ねらい> 自然物に触れながら親子で遊びを楽しむ

午前の部 藤見幼稚園 (雨天案実施)

- 9:30 受付 ウォークラリーバックを配布 受付終了後 園内ウォークラリー開始
・玄関でタヌキと合言葉を言ってみよう・絵本の部屋でリスとジャンケン
・保育室①くまと挨拶しよう②キツネとハイタッチ
終わった人から落葉のシャワーで遊ぶ
- 10:00 始まりの会
親子ふれあい遊び（むっくりくまさん）
遊びのコーナー紹介
- 10:15 ・マイツリー
・生け花&ランチコネクター
・オシャレ変身
・ドングリでお絵かき
・なんでもやさん（素材コーナー）
- 10:45 子育てサロン（保護者向け）
シェアタイム（子ども）
- 11:00 森のファッションショー
まとめ&おはなしタイム「てぶくろ」 高橋先生
- 11:15 おやつタイム



午後の部 白鳥こども園

- 13:00 受付 ショッピングバックを作る
白鳥の森（素材館）を親子で探索する
- 13:10 始まりの会
親子ふれあい遊び（さくらんぼん）
遊びコーナーの紹介
- 13:20 開店準備をしよう
・森のおすし屋さん
・森の写真館
・森のゲームセンター
・森のフィッシングパーク
- 13:50 お店屋さんへGO
- 14:30 子育てサロン（保護者向け）
絵本タイム(子ども)
- 15:00 まとめ&おはなしタイム「てぶくろ」 高橋先生
- 15:30 職員の振り返りと講師先生による講評
- 16:30 終了



〇まとめ（成果と課題） <〇職員による振り返りと☆講師先生の講評より>

- 〇 自然物を子どもと一緒に集めたのは良かった。
 - 〇 色々な遊びができる可能性をもった素材がたくさん集まった。
 - ☆ 参加人数と、コーナーの数のバランスが良かった。
 - ☆ 自然物とその他の素材（ビニール・プラスチックなど）のバランスがよかった。全体的に秋の色彩が感じられる環境になっていた。
 - ☆ 自分で主体的に遊びに取り組み保育環境が意識されていた。保育者がやりすぎないことは大切である。。
 - ☆ 予想外の遊びの展開もあったが、必要に応じて出したり、引っ込めたりする環境の作り方は良かった。
 - ☆ 会の持ち方としては、受付から始まるまでの時間のもち方を工夫した方がよい。
 - ☆ 荷物の置き場、置くタイミング、動線や動きを見通した配慮が必要である。
「貴重品はお持ちください。」の一言が自己責任を促し、主催者のリスクを軽減することになる。
 - 〇 赤い実をイクラに見立てると思って準備したが、子どもはドングリを使っていた。子どもの発想は柔軟である。☆大人の固定概念は外すことが必要。
 - 〇 人数が少なめであったが、うまく役割分担ができてスムーズであった。
 - ☆ もっと簡単な素材準備でもよかった。方向を導きすぎていた。『信じるに足る』
完璧に用意するのではなく、足りない部分を誰かが埋めていく。そうすると誰かと誰かがつながっていく。相手（子どもや保護者）の力を引き出す指導者であってほしい。
 - 〇 子どもだけでは難しいので、必然的に親子の関わりが生まれた。
 - ☆ 難しすぎても達成感が味わえない。あきらめてしまう。少しの努力ができる程度が良い。
 - ☆ 子どもが思い通りにならない事を解決していく、試してみるような遊びを展開できるようにしてほしい。
-
- 〇 保育者が作り込み過ぎない。自然のもつ力、多様さをどう遊びに変えていくかが大切である。
 - 〇 人もまた、環境である。人的環境としての保育者の在り方を考え、日々の保育実践に生かしてほしい。